



ムクゲ (槿、木槿)



アオイ科フヨウ属 *Hibiscus syriacus*、落葉広葉樹で種小名にはシリアとあるが中国原産。樹高3-4m、世界各地に庭木、街路樹、生垣として広がる。日本には平安時代以前におそらくは薬用植物として持ち込まれて定着し、広く見かける。6-10月に白や紅色の5弁の径6-8cmほどの花をつける。花の形状は同属のフヨウに似て、雌しべの周囲に多数の雄しべの柄（花糸）が合着している。やはり開花して次の日には萎んでしまう。厳しい

環境下でも樹はよく茂り、季節には次々と華やかに花を咲かすところから、無窮花（ムゲンファ）とも言われ、韓国の国花となっている。

樹皮を乾燥したものは「木槿皮」、花を乾燥したものは「木槿花」は生薬として知られ、前者はアルカロイド（canthin 6-one）、トリテルペン（betulin）、脂肪酸（azelaic acid）などを含み、白癬菌による皮膚病に、後者は胃炎、下痢などの治療に使われるらしい。

アオイ科の植物にはフヨウ、ハイビスカス、ボンテンカ、タチアオイなど、花の美しい植物が含まれる。しかし、オクラ、リクチメン（綿）などもアオイ科と言われると驚くが、花を見ればなるほどと思う。

中部大学では「ちゅとらの保育所」の近くに1株ある。かつて職員幹部の住宅のあったところで、道路との

学校法人中部大学

監事

太田明德



境の植え込みとして何株か植えられ、老朽化した住宅が撤去された後に残されたのだろう。住宅にはかつて、国際関係学部の畑中教授もお住まいで、学園長夫人と親しくされ、学園草創の三浦家の苦勞を伺ったとのことであった。

ムクゲ咲きいらかの波に霞み雨
ムクゲ花梅雨の晴れ間に一二三

参考)

- ・熊本大学薬用植物園薬用植物データベース、「ムクゲ」
- ・ウィキペディア、「ムクゲ」
- ・朝日百科「植物の世界」、第7巻p7-71、「アオイ科」、朝日新聞社1997
- ・「花の西洋史事典」アリス・M・コーツ（白